ホットな福祉情報紙
はあとふる・ふくしま 別冊 福島県災害ボランティアセンター通信
Vol.24 2012年3月19日発行

市町村災害・復興 ボランティアセンターからのメッセージ

リレーエッセイ

終わりは始まり

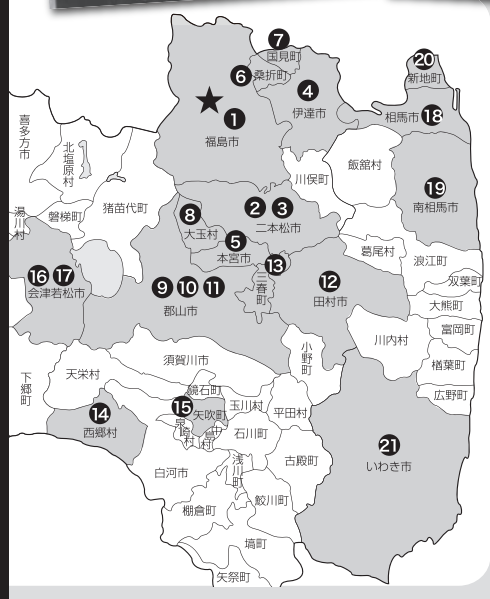
NPO法人うつくしまブランチ
フリーライター　掃部　郁子

福島県災害ボランティアセンター、NPO法人日本ボランティアコーディネーター協会（東京都）、NPO法人うつくしまブランチ（福島市）の協働で編集・発行してきた福島県災害ボランティア通信「はあとふる・ふくしま別冊」は、今号で役目を終えます。2011年4月26日の創刊からたくさんの方々にご支援、ご協力いただきました。ありがとうございました。

本紙は、大地震、津波、原発事故、風評被害と四重苦に苦しむ福島県で、避難所の様子や被災者、ボランティアの動向などを県内外に広く伝える役目を持って生まれました。当時、テレビや新聞で報道される福島のニュースは、そのほとんどが原発事故関連。そうしたなか私たちは、目の前の困難を少しでもよい方向に向かわせる方法の一つとして市町村災害ボランティアセンター情報、ボランティア活動希望者への注意喚起、様々なボランティア活動事例の紹介、1人でできる体操、心のケアなどの情報を届け続けました。基本は、どなたにでも手に取って読んでいただける紙媒体。ホームページでは、多言語による情報提供も行ってきました。

創刊から24号まで私は、取材を担当させていただきました。常にタイムリーな情報をと考え12号まで毎週発行というタイトなスケジュールを続けました。「被災して動けない仲間のことも考えると動ける僕らがやるしかない。生きたことばで福島の今を伝えて行きたい」と熱く語ってくれたSさん。「足湯は、10分間のショートストーリー。これからも傾聴に力を入れていきたいです」と、目をうるませていたTさん。先の見えない苦しさを抱えながらも真摯に自分と向き合い答えてくださった皆さん、本当にありがとうございました。出身地、職業、年齢、すべての枠を超え懸命に知恵を出し合い、支え合う姿。自助から共助へと活動を広げていく人々の優しさは、絶望の中に輝く希望の光でした。取材では、活動を続けながら知らない間に皆さんが心に宿す大切な「気づき」に出合うことが多々ありました。言葉にすることで明確になる気づきは、福島の復興とこれから先、日本のどこかで必要となるかもしれない被災地支援の原動力になると感じています。福島の復興は、長期戦です。本紙を読んでくださっている皆さんの心にも、それぞれの気づきがあると思います。ぜひ、言葉と声にして自身の復興の力にしてほしいと思います。終わりは、始まりです。またどこかでお会いできますように。

4月以降設置予定の市町村災害・復興ボランティアセンター紹介



県北
1. 福島市社会福祉協議会 生活復興支援室
2. 二本松市災害ボランティアセンター
3. がんばろう！なみえ復興ボランティアセンター
4. 伊達市復興支援センター
5. 本宮市災害ボランティアセンター
6. 桑折町（こおりまち）生活支援ボランティアセンター
7. 国見町復興ボランティアセンター
8. 大玉村生活復興ボランティアセンター

県中
9. 郡山市生活復興ボランティアセンター
10. 富岡町生活復興支援おだがいさまセンター
11. おだがいさま川内センター
12. 田村市生活復興ボランティアセンター
13. 三春町生活支援ボランティアセンター

県南
14. 西郷村（にしごうむら）復興ボランティアセンター
15. 矢吹町生活支援ボランティアセンター

会津
16. 会津若松市社会福祉協議会 ボランティアセンター災害支援部門
17. 生活支援ボランティアセンター「つながっぺ！おおくま」

相双
18. 相馬市生活復興ボランティアセンター
19. 南相馬市生活復興ボランティアセンター
20. しんち町生活支援ボランティアセンター

いわき
21. いわき市復興支援ボランティアセンター

★福島県災害ボランティアセンター
TEL:024-522-6540

御礼

震災から1年が経過し、本紙「福島県災害ボランティアセンター通信　はあとふる・ふくしま別冊」も今号で最終号の運びとなりました。

発行からの1年を振り返ると、ボランティア活動の内容も避難所支援や瓦礫撤去、泥出しといった災害支援から仮設住宅等におけるサロン活動や炊き出し、集会所での各種催し物といった生活支援へと移ってきました。

これらの活動内容や活動する人の紹介記事や本県ゆかりの方々の福島へのメッセージをお読みいただくことで、皆様の心の支えや励みとなることを願って発行してまいりました。

福島県では今年の3月11日までの1年間で延べ147,000人を超える方々が、県内の災害ボランティアセンターを通して活動いただき、今も尚、様々な形で支援をいただいております。市町村の災害ボランティアセンターも4月以降、名称変更等を予定しているところもありますが、引き続き被災者支援に取り組んでまいります。

今後、福島県が復興に向かい立ち上がっていくためには住民や地域自らの力とともに様々なボランティアや支援者の方々の力は欠かせません。今後も長きにわたる復興への道のりに、ともに寄り添い、ともに助け合い、ともに励まし合いながら歩んでいければと思います。

本紙の発行は終了となりますが、これまで取材にご協力いただいた皆様、広報にご尽力いただいた皆様、ご愛読いただいた皆様、本当にありがとうございました。

2012年3月

福島県災害ボランティアセンター
編集協力：NPO法人うつくしまブランチ ※1、
NPO法人日本ボランティアコーディネーター協会 ※2

※1：芸術、教育、企画、編集、広告、建築などに関わる人材、地域住民がより良い“ふくしま”を創造し、提案、実践してゆくことを目的に生まれた。2004年からエンターテイメントあふれる様々なまちづくりイベントなどを展開している。
※2：市民の社会参加意識を高め、積極的に行動することを支えるボランティアコーディネーターを支援する全国組織。

編集後記

大震災より一年がたち、はあとふる・ふくしま別冊は最終号を迎えました。福島の明日を信じてお読みくださった方々、メッセージをお寄せいただいた方々など多くの皆様に感謝です。（大川原公年）

最新情報はホームページでご覧ください！
http://www.pref-f-svc.org

5ヵ国語（English、Chinese、Korean、Português、Tagalog）で翻訳の「はあとふる・ふくしま 別冊」がご覧になれます。
■協力：多言語センターFACIL